

災害の起こらないことを祈って

～家庭にバスタオルの防災頭巾を～



小湯の上 今井 正子

被災地から届く便りの中にも、少しずつ復興の兆しが見えてきました。

震災直後には、災害の怖さを目の当たりにし、にわかに防災への関心が高まったご家庭も少なくないと思います。傷跡もまだ癒えぬ今日、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」ことにならないように、防災頭巾を手作りしてみたいかがですか。

今年二月、茅野市内で開かれた「バスタオルの防災頭巾」の講習会に二区ボランティアグループのメンバー三人で出席し、作り方を学んできました。「バスタオルの防災頭巾」は

J A福島女性部の皆さんが、東日本大震災での避難経験をもとに、アイデアを出し合って作った防災頭巾で、「震災の記憶が生々というちに備えてほしい」というメッセージとともにご紹介いただいたものです。

最初に「防災頭巾の講習」とお聞きした時は、戦時中の子供の頃を思い出しが痛みましたが、被災者の方の思いを胸に、災害時の備えとして取り組むことができました。

防災頭巾の中には保険証のコピーやお金などの他、下着や軍手、歯磨きセットなど、生活必需品が縫い付けてあり、糸を解けばすぐに使えるようになってきます。避難先で役立つばかりでなく、縫い付けられたものに

より頭巾に厚みができ、避難時に落下物から身を守ることはもちろん、暖かく寒さをしのぐこともできるという優れたものです。下諏訪町ボランティア連絡協議会でも、六月二十五日に講習会を開き、三十名のご参加をいただき作り方をお伝えすることができました。



熱心に防災頭巾作りに取り組む

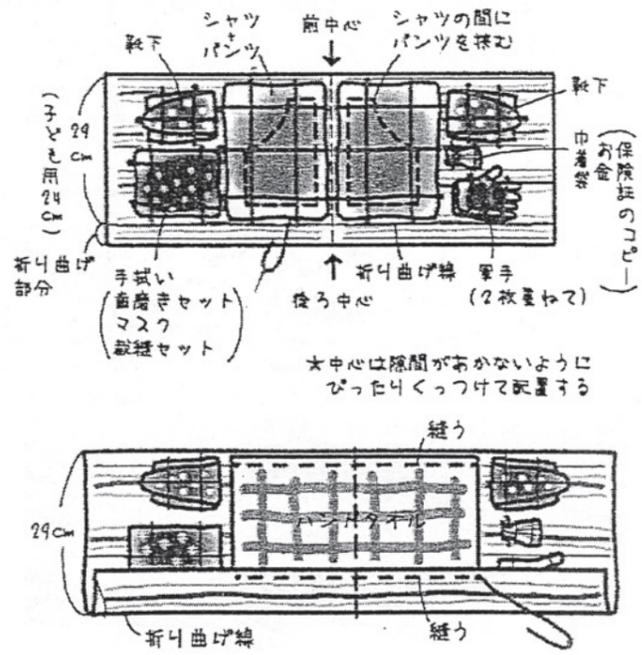
ができます。防災頭巾を紹介してくださった福島の人々は、復興という名のもとに、より一層人と人との繋がりを強くしていきます。お子様やお友達と意見交換したりアイデアを出し合ったりして、絆を深め、物心ともに備えとなれば、被災された方々の思いを受け、防災への意識を高めるきっかけにもなるのではないのでしょうか。災害の起こらないことを祈りつつ、皆さんも作ってみてください。



出来上がったばかりの防災頭巾

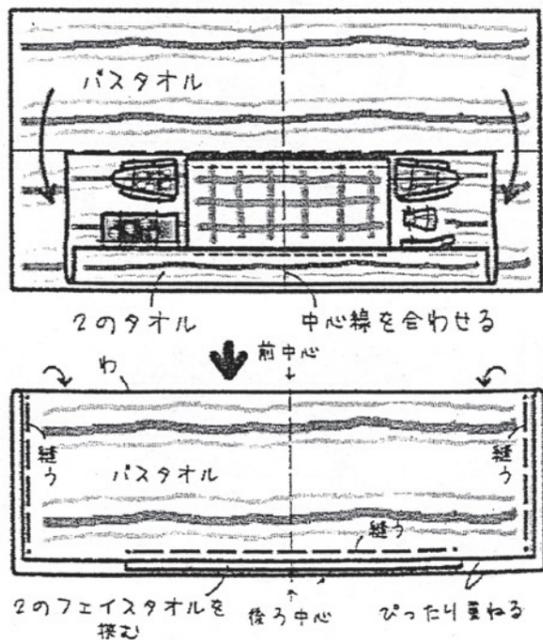
この防災頭巾をベースに自分たちなりに工夫することも楽しいかと思えます。例えば、子供の頭巾では、軍手を中に入れてあしらったり、安全面もかねて射撃を付けたりなど、お母様のアイデア次第で可愛い頭巾

① まず、フェイスタオルに必要なものを縫いつけます。フェイスタオルを広げ、上から29センチの間に収まるよう、図のように中に入れるものを並べ、それぞれ糸を渡して縫いつける。

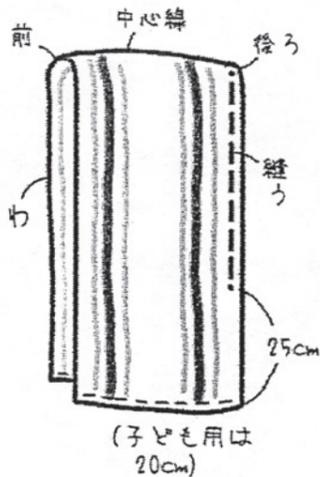


★お金と保険証のコピーは、それぞれポリ袋に入れ、さらに巾着袋に入れてから縫いつける。  
★歯磨きセット、マスク、裁縫セットは手ぬぐいや風呂敷でくるみ、適当な大きさにたたんでから縫いつける。

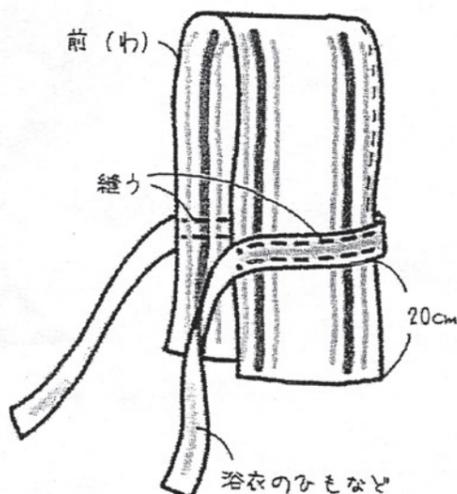
③ バスタオルを横に広げ、②のフェイスタオルの下半分の位置に載せる。そのままバスタオルの上半分を、フェイスタオルにかぶせて挟むようにし、図のように縫いつける。



④ ③のバスタオルを中心線で折りたたみ、わと反対の、後ろ部分を図のように縫い合わせる。



⑤ 図のようにひもを縫いつけて完成。



○中身を使うときは、手で糸を引っ張って糸をほどきます。後頭部の方から糸をほどき、中身を取り出して使います。

② パンツとシャツを二組縫いつけた上に、ハンダタオルをかぶせ、上部を下に敷いたフェイスタオルに縫いつける。フェイスタオルの下部を図のように折り曲げ、ハンダタオルに縫いつける。  
★縫うときは、手ほどきやすいよう、三センチ程度の間隔でざっくりと縫う。

中に入れるもの

- ・下着 (シャツ2枚、パンツ2枚)
- ・靴下2足
- ・軍手
- ・マスク
- ・裁縫セット
- ・保険証のコピー
- ・常備薬
- ・お金 etc

材料

- ・バスタオル1枚
- ・フェイスタオル1枚
- ・ハンダタオル1枚
- ・手ぬぐい1枚
- ・ミニ巾着袋
- ・ひも (3×180cm)
- ・ポリ袋2枚

道具

- 針 はさみ しつけ 定規